

令和5年2月27日 発行



こ う じ え ん

普及センターだより

耕耳苑

宮古農業改良普及センター

TEL：0193-64-2220

FAX：0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL：0194-22-3115

FAX：0194-22-2806

いわてアグリベンチャーネット

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

第182号

## 年度末のごあいさつ ～コロナ禍と物価高のなかの普及活動～

宮古農業改良普及センター所長 加藤 満康

山々の雪がとけ川が勢いよく流れています。皆様には、春作業で御多忙になる折、事故もなく安全に暮らせるようお祈りしています。改めて本年度も、普及活動に御協力を賜りましたこと深く感謝申し上げます。

コロナ禍や物価高で経営が厳しさを増すなか、皆様は日々為すべき努力を続けているところと存じ、当センターでも、関係者と力を合わせて出来る限りの支援を続けて参りますので、引き続き御相談ください。

さて本年度の普及活動は、3年目のコロナ禍のなか、農家巡回や指導会、様々な企画行事など概ね予定通り行いました。道のりは平坦ではありませんでしたが、農業生産では、米の作柄は平年並み、銀河のしずくやブロッコリーの生産は着実に拡大し、ブロッコリー専門部が県の「個性ある産地づくり賞」を受賞する成果もみられました。果樹は災害がなく収穫を迎え、畑わさびは担い手確保の動きが活発化しています。

畜産では、飼料高に加えて和牛子牛や乳牛スモールの価格が低落するなど一層厳しい事態になっていますが、10月に開催された「全国和牛能力共進会」では、管内から出場した6頭全てが優秀賞に入る大活躍を見せてくれました。

新規就農では、就農相談数の増加が続くほか、新しく第3者継承の形が作られています。地元の農村青年クラブは、13年ぶりの沿岸開催となる「県農村青年クラブ大会」を企画し交流を深め、食の匠の会は、3年ぶりに公開講座を開いて匠の技を伝えることが出来ました。

また現在当センターでは、これまでの活動を振り返りながら次期4年間の普及指導計画の策定作業を進めており、より皆様のお役に立てる活動につながるよう計画を仕上げていきます。

社会の変化につれて、食料を供給する農業農村の役割が見直されています。そのなか皆様には、先達に倣って生産基盤、技術や支援システムなど内外の経営資源の組立方を洗い直しながら、新たな技術を取り入れて変革していく気持ちを持ち続けてもらいたいと存じます。経営展開中に目標を見失うことがあれば、一息ついて目標を描き直し、そこに向かって歩み続けられるよう願っています。

結びに、この地で皆様が生き生きと営農に勤しみ、日々の営みが次代へ受け継がれていくことを祈念します。



# 令和4年度宮古地方農業賞の受賞者決定

去る1月27日に選考委員会が開催され、令和4年度の宮古地方農業賞の受賞者が決定しました。受賞された方々、おめでとうございます。

## 1 農業振興部門

(敬称略)

区分	市町村	氏名	受賞区分
農業推進の部	岩泉町	山屋 祐太	明日を担う農業経営者賞
		中村 匡志	



山屋様は、岩泉町内で酪農ヘルパーに従事していたことをきっかけに、令和2年10月に第三者継承により酪農の経営基盤を受け継ぎました。その後、優良経営体と積極的に交流し、積極的に知見を広めながら牛群改良や生産性向上に取り組み優れた成績をあげるとともに、若者に経験を伝えるなど人材育成にも貢献されております。

中村様は、酪農を営む両親のもとで育ち、平成26年に就農されました。その後、管理作業や研修、同志と積極的に交流して研鑽を重ね、現在は飼養管理を行いながら、新技術の導入や牛群改良の加速化など生産性の高い経営を展開するとともに、農村の組織活動にも貢献されております。

区分	市町村	団体名	受賞区分
むらづくりの部	岩泉町	小本飼料作物生産組合	産地づくり賞



小本飼料作物生産組合は、平成14年度の設立から20年間の長きにわたり、飼料作物の生産を通じて地域の農地の維持管理を適切に行い、町内外の畜産農家へ安定的に粗飼料を供給するなど、大震災を乗り越えて地域農業の発展に貢献されております。

## 2 園芸部門

(敬称略)

	区分	市町村	氏名
最優秀賞	野菜部門(ピーマン)	岩泉町	佐々木 陽子
	花き部門(小菊)	宮古市	中村 一彦
	椎茸部門(生しいたけ)	田野畑村	大崎建設(株)
優秀賞	野菜部門(ピーマン)	岩泉町	佐々木 久六
	野菜部門(きゅうり)	宮古市	上坂 清一
	野菜部門(ブロッコリー)	山田町	(株)いわき農園
	野菜部門(ほうれんそう)	田野畑村	根木地 喜則
	野菜部門(わさび)	岩泉町	中田 和幸
	野菜部門(いんげん)	山田町	佐々木 義明
	花き部門(りんどう)	宮古市	因幡 則光

## 3 畜産部門

(敬称略)

	区分	市町村	氏名
最優秀賞	酪農部門(21頭以上)	岩泉町	中村 隆幸
	酪農部門(20頭以下)	岩泉町	内村 豊幸
	和牛繁殖部門(6頭以上)	宮古市	佐々木 勇
	和牛繁殖部門(5頭以下)	宮古市	舘崎 浩昭
	短角繁殖部門	岩泉町	佐々木 久任
	短角肥育部門	岩泉町	佐藤 崇
優秀賞	酪農部門(21頭以上)	岩泉町	山崎 敏
	酪農部門(20頭以下)	岩泉町	小野寺 光男
	和牛繁殖部門(6頭以上)	岩泉町	畠山 利勝
	和牛繁殖部門(5頭以下)	田野畑村	熊谷 順次郎
	短角繁殖部門	宮古市	川戸 祐孝

【担当：鈴木上席農業普及員】

# 一般消費者を対象とした「宮古地方食の匠の技公開講座」 を3年ぶりに開催！

宮古地方食の匠の会（神楽栄子会長）は、一般消費者を対象とした「食の匠の技公開講座」を2月14日に開催しました。一般消費者対象の公開講座は、令和2年2月に中止となって以来、実に3年ぶりの開催となりました。

実演品目は、神楽会長の認定料理である「麦ぞうすい」と地域の伝統食である「小豆ばっとう」としました。

当日は「食の匠」7名が会場の山口公民館に集合し、「麦ぞうすい」は神楽会長が、「小豆ばっとう」は田屋礼子さんが中心になって実演を披露し、他の食の匠が受講生17名の調理をサポートしました。受講生からは、「麦ぞうすいは、老人クラブの集まりや防災訓練の時に出せるかも知れない」とか、「小豆ばっとうは、今まで自己流でやっていた小豆を煮るタイミングや材料を入れるタイミングがわかって、とても有意義でした」といった感想が述べられました。

普及センターでは、今後も「食の匠」の活動を支援していきます。

【担当：佐藤主任農業普及員】



## 春の農作業安全、山火事防止について

県では、農作業が本格化するこの時期、令和5年4月15日から6月15日を『春の農作業安全月間』としております。安全に農作業を進めるためにも、「いつものこと」と思わずに、今一度それぞれの農作業に注意を向けましょう。

～ 令和5年度スローガン 「農作業 慣れと油断が 事故のもと」 ～

- ・ 農作業前に、作業の内容や場所、終了予定時刻を共有する。
- ・ 農業機械は、定期的に点検を行う（必ずエンジンを切って確認しましょう）。
- ・ 乗用の農業機械について、シートベルトやヘルメットを正しく着用する。



また、令和5年3月1日から5月31日は、『岩手県山火事防止運動月間』となっています。この時期は、野焼きが原因と思われる林野火災も発生していることから、野外での火の取り扱いに十分注意して、山火事防止に努めましょう。



【担当：千田農業普及員】

# 国際水準 GAP の紹介

## 1 GAP とは？

GAP (Good Agricultural Practices:農業生産工程管理) は、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動です。食品の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保等に役立つとともに、農業経営の改善や効率化につながる取組です。

## 2 国際水準 GAP について

農林水産省では、「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」の5分野を含むGAPを国際水準GAPと呼称し、普及を推進しています。

県内でも、G-GAP、JGAPなどの国際水準を満たしたGAPの認証を受ける経営体が拡大しております。

### 【国際水準 GAP の推進方策の基本方針】

- 国際水準GAPに取り組むことで、農業者自らがSDG, Sに貢献できることを理解し、それを実需者・消費者にも広く発信。
- 国際水準GAPガイドラインの策定により我が国共通の取組基準を明確にするとともに、都道府県GAPの国際水準への引き上げをすすめ、国と都道府県が一体となって国際水準GAPの取組を推進。



## 3 宮古管内の事例紹介

### JA 新いわて宮古地域ブロッコリー生産者グループ

所在地：岩手県宮古市、田野畑村、岩泉町

構成：4経営体（令和5年2月現在）

発足：平成31年2月 取得：令和元年11月

### ●GAP 認証所得の目的

沿岸地域という、立地条件としては恵まれない中での10年、20年先も持続的農業ができる環境づくり

### ●GAP 認証取組の効果

- ・GAPの取組によって、整理整頓や基調が定着し、作業効率がアップ
- ・安全、安心意識の明確化

### ●GLOBAL.GAP の活動が評価され、JA 新いわて宮古地域野菜生産部会ブロッコリー専門部として、いわて農林水産振興協議会表彰個性ある「産地づくり」賞を受賞。



興味ある方は、普及センターまでご相談ください。

【担当：小原上席農業普及員】

（編集後記）時の移ろいは早いもので、3月となり令和4年度も終わりを迎えます。この「耕耳苑」では、地域の農業者の皆様のご活躍される姿や普及センターでの取組をお伝えしてきました。1年間、ご愛読いただきありがとうございました。来年度もタイムリーにわかりやすくお伝えできるよう頑張りますので、引き続きご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。（鈴木）